

施設キュウリ産地の 維持・強化に向けた支援

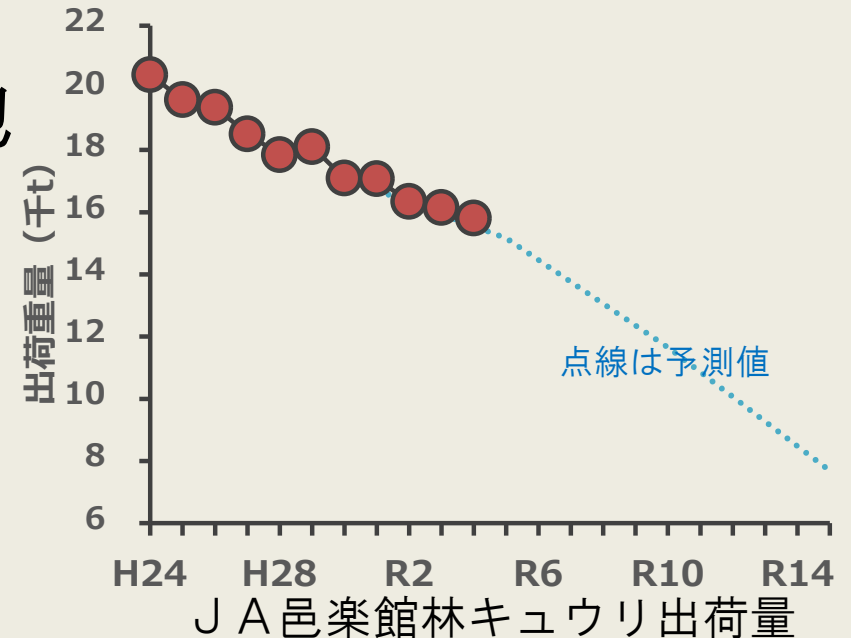
計画年度：令和6～8年度



東部農業事務所 館林地域農業課

課題設定の背景と目的

- 全国有数のキュウリ産地
（年間出荷量16,000 t）
- キュウリと米麦との
複合経営の割合が高い
- 後継者不足と担い手の
高齢化等により**産地規模が縮小**



- **新規就農者の確保・育成**、先進技術の導入
等による**単収増加**で産地を維持・強化する

支援事項と解決手法

1. 関係機関と連携した産地強化支援

JA等と就農支援、生産振興の情報を共有

2. 新規就農者等地域農業の担い手の確保育成

邑楽館林施設園芸等担い手受入協議会による現地説明会や作業体験会を開催

3. 所得向上支援

環境制御技術の普及による生産性向上



活動経過及び結果①

1. 関係機関と連携した産地強化支援

【活動経過】

◆野菜振興会議（6回）

検討内容

- ・キュウリ産地ビジョン
- ・普及計画進捗 等

【構成員】

J A 邑楽館林
東部農業事務所
農業技術センター
全農群馬県本部

活動のベクトルを
合わせて取り組もう！



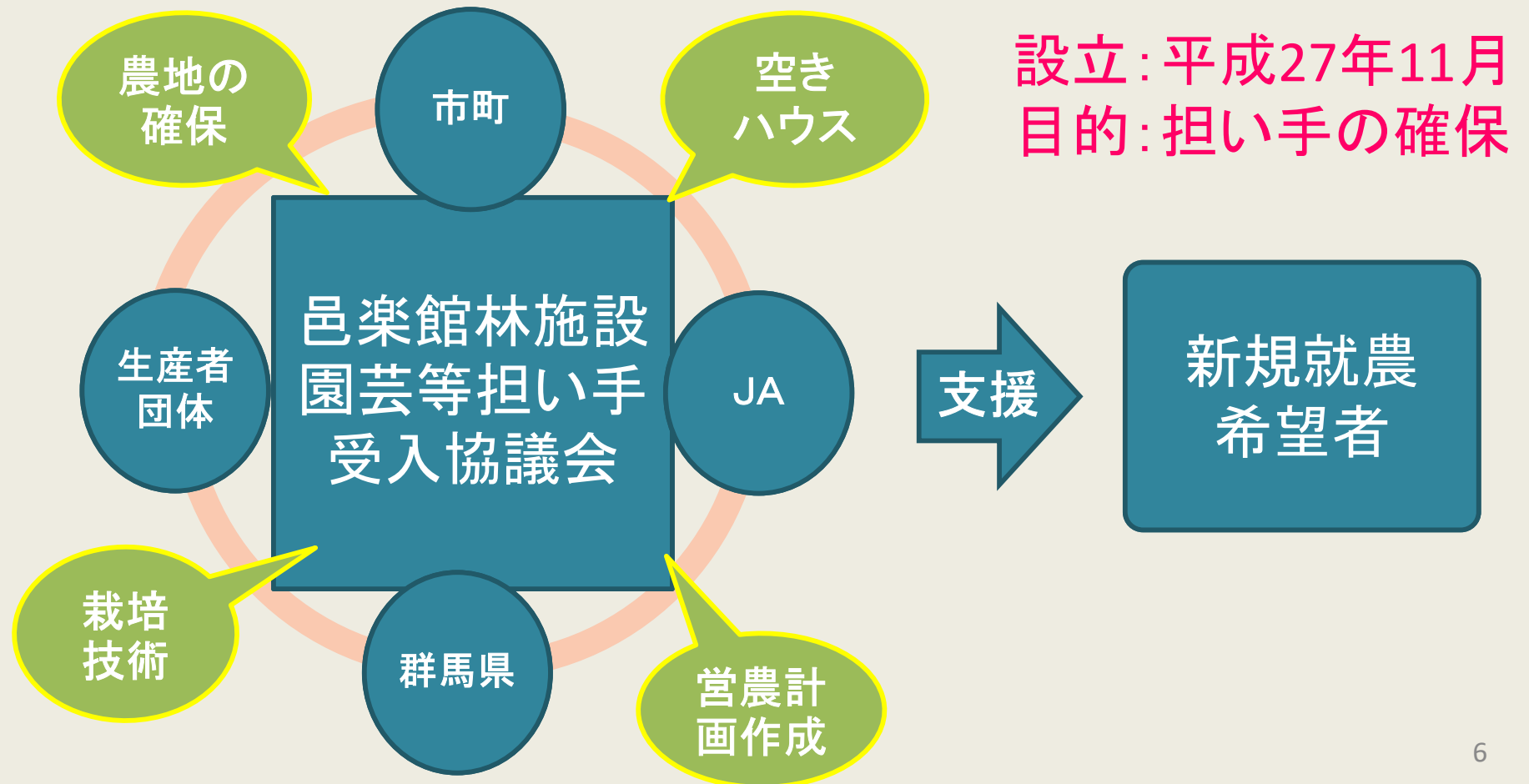
【活動結果】

◆産地維持に向けた取組の方向性を共有

活動経過及び結果②-1

2. 新規就農者等地域農業の担い手の確保育成

(1) 邑楽館林施設園芸等担い手受入協議会の活動支援



活動経過及び結果②-2

2. 新規就農者等地域農業の担い手の確保育成

(1) 邑楽館林施設園芸等担い手受入協議会の活動支援

【活動経過】

- ◆協議会事業実施支援（7回）
- ◆総会・幹事会（3回）
- ◆就農相談（3回）
- ◆研修支援（4回）
- ◆就農支援農家（1名）

リーフレット
作製等



新農業人フェアへの出展

作製したリーフレット

キュウリの大産地 ぐんま **農**を おうらたてばやし 邑楽館林地域で **農**を 仕事にしてみませんか!




邑楽館林施設園芸等担い手受入協議会

研修生募集要件

- ◇心身ともに健康で就業意欲が高い方
- ◇研修時から邑楽館林に居住・就業できる方
- ◇当面の生活費を用意できる方

まずは現地説明会・農業体験に参加してみましょう!

作付け体系

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
促成キュウリ												
期前キュウリ												

◎ 定植 ◎ 収穫

就農までの流れ

- 現地説明会**
 - 産地の概要説明
 - 生産者ハウスにて見学
- 農業体験**
 - 新就農入会者のハウスにて農業体験
 - 就業相談
- 面接**
 - 受入農家、事務員、関係機関と本人で面接
 - 就業や研修の約束事や就業までの流れ等を再確認
- 研修**
 - 受入農家の指導のもと約2年間実践的な研修を実施
 - 就業に向けて経営計画、農地及び空きハウスの賃借、機械の導入を検討
- 就業**
 - 青年等就業計画を就業地の市町に申請し、認定新規就農者等になる
 - 就業後も継続的な支援を受ける




キュウリ現地説明会



農業体験

Q 研修生を受け入れた経緯は?

A) 担い手受入協議会を通して相談がありました。研修生を受け入れたのは初めてでした。

Q 研修生を受け入れてみてどうでしたか?

A) 教える! 伝える! 指導の難しさが率直な意見。野菜を作る技術、知識はもちろん、人との繋がりや農業の楽しさを1番に伝えました。人との繋がりと農業の楽しさを認識しました。研修生はこれからの必要は、重要性を改めて、自分のスキルアップにも繋がる機会だったので、受け入れの価値は◎です。

Q 産地で就業したい人にメッセージ

A) 栽培環境・天気、人間環境・完備で気候に恵まれているのでやる気だけは問題ない。一度きりの人生だからこそ、楽しく修いながら研修を有効活用!

Q 農業をしようと思った理由は?

A) 独立したかったのと、業と一緒に働きたかったこと。そのための方法として農業が一番近道だと思いました。

Q 就業までに体験したことは何ですか?

A) 案内の農家で4年ほど働きました。その後独立するため、施設キュウリの農家で2年間研修し、作型別に栽培方法を学びました。

Q 農業をやるのに大事なことは?

A) 自分の作った作物が消費者の口に入るという意識、責任を持つことだと思います。一生懸命手をかければ作物は応えてくれると思うことが大事だと思います。

農業で生計がたてられる 都心へのアクセスが良い 専業農家での研修あり



JAIによるキュウリ栽培講習



指導センターによるキュウリフレッシュマン講座



問い合わせ先

邑楽館林農業協同組合 営農部 営農指導課
(邑楽館林施設園芸等担い手受入協議会事務局)
〒374-8611 群馬県館林市赤生田町647
TEL: 0276-73-4991

館林地帯農業指導センター
令和7年4月からは館林市に変わります(予定)
〒374-0029 群馬県館林市仲町11-10
TEL: 0276-74-2257

関係機関: 邑楽館林農業協同組合・館林市・館林町・明和町・千代田町
大泉町・邑楽町・館林市農業指導センター
群馬県総合農業振興局 館林地帯農業指導センター

令和7年2月発行

活動経過及び結果②-3

2. 新規就農者等地域農業の担い手の確保育成

(1) 邑楽館林施設園芸等担い手受入協議会の活動支援

【活動結果】

◆現地説明会参加者（4名）

◆協議会受入者

キュウリ研修生（1名）

※R5～研修（2年間）開始、2年目



研修受入農家と研修生

- 研修生に対し就農計画の作成を支援した結果、館林市の認定新規就農者として認定された

活動経過及び結果②-4

2. 新規就農者等地域農業の担い手の確保育成

(2) 就農定着支援

【活動経過】

◆ 早期経営安定に向けた
フォローアップ巡回

(3名)

【活動結果】

◆ 就農計画達成率 100%

- 協議会の支援プログラムを通じて就農した5名のうち、
離農者はゼロ



巡回指導

活動経過及び結果③-1

3. 所得向上支援

(1) 生産技術の向上

【活動経過】

- ◆ 栽培講習会 (4回)
- ◆ 現地研修会 (1回)
- ◆ 巡回指導 (14回)
- ◆ フレッシュマン講座 (3回)



フレッシュマン講座

活動経過及び結果③-2

3. 所得向上支援

(1) 生産技術の向上

【活動結果】

◆ 平均単収 21.0 → 20.5t/10a
(目標21.5t/10a)

◆ 新規就農者定着率 (就農5年以内) 100%

- 講習会等で指導した技術(遮光など)を実践する生産者が増えたが、令和6年度は記録的な高夜温の影響による「流れ果(肥大しない果実)」の発生などにより、単収が低下



活動経過及び結果④-1

3. 所得向上支援

(2) 先進技術の導入推進

【活動経過】

- ◆ 先進技術講習会（2回）
- ◆ クラウドデータとタブレットを活用した指導（9回）



先進技術講習会



環境制御ほ場巡回

環境制御技術導入を検討している生産者に、既設生産者の活用事例等を紹介

活動経過及び結果④-2

3. 所得向上支援

(2) 先進技術の導入推進

補助事業の
活用も支援

【活動結果】

◆ 環境制御技術導入農家数
(43→45戸) 収量の向上

◆ データ駆動生産者の育成 (5→8戸)

- ハウス内環境に加え、出荷量や作業時間データを入力することで環境制御と生産性向上の関係性を把握し、改善に活かす生産者を育成できた
- さらに環境制御技術の普及を図るためには、選別・箱詰めも含めた作業時間を確保することが課題



ミスト導入ハウス

活動経過及び結果⑤-1

3. 所得向上支援

(3) スタディークラブ「節なり会」の活性化

トップランナー生産者を
中心とした自主勉強組織

【活動経過】

- ◆ 現地研修会（14回）
- ◆ 反省会（2回）
- ◆ 視察研修（1回）
- ◆ クラウドデータと
タブレットを活用した指導（6回）



節なり会反省会

活動経過及び結果⑤-2

3. 所得向上支援

(3) スタディークラブ「節なり会」の活性化

【活動結果】

- ◆ 会員数 (19→22名)
- ◆ 会員平均単収
(26.0→27.2t/10a)

	産地全体	スタディー クラブ
平均単収 (t/10a)	20.5	27.2
所得試算 (10a)	246万円	326万円

※単価300円/kg、所得率40%として試算

- 現地研修会での指摘事項を実践し、成果を上げた生産者もあり、技術向上に寄与している
- 会員が県内トップクラスの単収(約40t/10a)を達成

活動経過及び結果⑤-3

3. 所得向上支援

(3) スタディークラブ「節なり会」の活性化



さきがけ農業賞表彰式



高度化全国研究大会

群馬県では初受賞

- 「節なり会」の活動が評価され「群馬さきがけ農業賞（革新的農漁業部門）」を受賞
- 普及活動が評価され、農業普及活動高度化全国研究大会で全国農業改良普及職員協議会長賞を受賞

到達目標に対する取組実績

目標	年次	R5	R6	R6
		現状	目標	実績(達成率)
キュウリ出荷量(t)		16,000	16,000	14,400(90%)
協議会受入者キュウリ研修生数(人・累計)		4	4	4(100%)
環境制御技術導入生産者数(人・累計)		43	45	45(100%)

- 令和6年産キュウリ出荷量は記録的な**高夜温などの影響で減少**した
- 研修生は研修(2年)を修了し認定新規就農者として**令和7年4月に就農**
- 新たに2名が**環境制御機器を導入**

残された課題と今後の対応①

(1) 協議会を通じた就農者に対する技術支援

研修生が就農し（令和7年4月～）自分のハウスでの栽培が始まるため、スタディークラブへの誘導を含めた**技術支援**を行う

(2) 新たな研修生の確保

新たな研修生が確保できていないため、担い手協議会による就農相談イベント出展やホームページを活用した活動PRに取り組み、**就農希望者の掘り起こし**を行う



農業体験

残された課題と今後の対応②

(3) 産地内出荷量を維持するための改革

- ①ハウス内環境の自動制御（天窓、カーテンの開閉、自動かん水等）の普及による**省力化、労働生産性の向上**
- ②**雇用者が管理できる栽培法の導入**（更新型つる下ろし栽培等）
- ③**キュウリ専作経営体**の育成
- ④**米麦の大規模経営体**の育成
- ⑤**乾田直播栽培**の検討（稲作の作業時間短縮）
- ⑥**高温対策**

R2策定の産地ビジョンを
ブラッシュアップ